F 8　　女子短大生の短大家政科に対する意識について（第1報）
　　その2　本学在学生の意識

大妻女大家政　○大竹智恵子　飯田朝子　小笠原ゆ里

目的：その1に同様。その2では，本学短大家政科の在学生を対象として，昭和57年の調査に引き続き本調査を実施し，短大家政科教育についての意識を経時的にとらえ，短大生の意識の推移を把握することを目的としている。
方法：本学短大家政科2年生741名を対象として，質問紙法によるアンケート調査を実施。質問紙を配布し，その場で記入させ回収した。有効回答者数697名（94.1%）であった。
質問項目は，短大家政科を選んだ理由，短大家政科教育への期待，短大のイメージ，本学短大家政科に対する親の意識，学生生活に対する満足度，就労に対する意識等9項目についてアンケートを作成した。　調査時期は，昭和60年1月下旬～2月上旬。
結果：①短大家政科を選んだ理由については，「女性としての幅広い教養を身につけたいから」が多かった。　②短大家政科教育に期待することは，「家事技術を中心とした実際教育を行う」が多く，2年間の短大生活に対しては74.6%のものが，ほぼ期待通りであると答えている。　③本学の"建学の精神"という言葉に対し一番に思い浮ぶ言葉としては，54.4%の学生が「良妻賢母」を挙げており，また，本学短大に対する両親の意識は，「良妻賢母の建学の精神を生かした女子教育機関」が35.7%で，このことからも本学に対する社会的評価がうかがわれる。　④卒業後，就職をするものは88.7%であるが，生涯にわたり職業に就きたいと答えているものは，わずかに6.1%で，多くの学生は，結婚あるいは出産を契機に家庭に入ることを希望している。以上のことから，本学短大家政科の学生は，きわめて家庭生活志向の強いことがわかった。